

詳細データはこちらから  
[データで見る公立大学法人大阪]



統合報告書

アニュアルレポート

2025

公立大学法人 大阪  
University Public Corporation Osaka

〒536-0025 大阪市城東区森之宮一丁目6番85号  
<https://www.upc-osaka.ac.jp/>

2025年10月発行

# Annual Report 2025

統合報告書

アニュアルレポート 2025

公立大学法人 大阪  
University Public Corporation Osaka





# University Public Corporation Osaka

公立大学法人大阪

## 統合報告書 アニュアルレポート 2025

### CONTENTS

|       |   |
|-------|---|
| 目次    | 1 |
| 理事長挨拶 | 2 |

#### 法人像

|                            |   |
|----------------------------|---|
| MISSION                    | 3 |
| 大阪公立大学 概要                  | 4 |
| 都市シンクタンク機能 & 技術インキュベーション機能 | 5 |

#### 研究

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 「知の拠点」となる高度研究型大学を目指して | 7  |
| 数字で見る研究力              | 8  |
| 研究拠点                  | 9  |
| 研究トピックス               | 11 |

#### 人材

|           |    |
|-----------|----|
| 数字で見る国際交流 | 13 |
| 大学ランキング   | 15 |
| 学生の活躍     | 16 |

#### 社会貢献

|                |    |
|----------------|----|
| 大阪・関西万博トピックス   | 17 |
| 社会連携・地域貢献トピックス | 19 |

#### キャンパス

|                    |    |
|--------------------|----|
| 2025年9月、森之宮キャンパス開設 | 21 |
| キャンパス              | 22 |

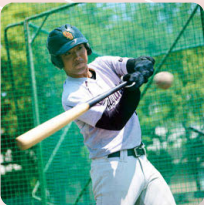
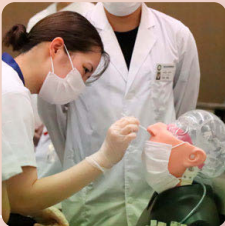
#### 財務情報

|         |    |
|---------|----|
| 決算情報    | 23 |
| 項目別経年推移 | 25 |

### 大学歌、学生歌が完成

2025年3月、大学の一体感を高め、伝統を築く一助となるよう、大阪公立大学の「大学歌」および「学生歌」が、学生・教職員からの公募により完成しました。

動画は  
こちら



### 公立大学法人大阪の

「今」と「これから」をご案内します。



大阪公立大学は、2022年の開学以来、12学部・学域、15研究科を有する全国有数の総合大学として、その「総合知」を最大限に活かし、大阪の成長と発展に貢献しつつ、大阪から世界へとグローバルに飛躍する大学を目指して歩みを進めてまいりました。2024年度も、教員による多様かつ卓越した研究成果の公表や「大阪公立大学vision2030」に向けた取り組み、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の本格始動、国公立大学の中で志願者数4年連続1位、課外活動やボランティア活動など学生たちの伸びやかな活躍など、大学が成長に向けて前を向き、大きく動き始めています。

また、2024年度から2025年度当初にかけては中百舌鳥キャンパスに工学部新棟並びにスマートエネルギー棟、杉本キャンパスに理学部新棟、阿倍野キャンパスに看護学部新学舎が完成し、教育・研究環境のさらなる充実が進んでおります。そして2025年9月にはいよいよ森之宮キャンパス(1期)を開設します。本キャンパスは「知の森」をコンセプトとし、約6,000人の学生・教職員が集う地域と共生する次世代型都心キャンパス。この森之宮の地を中心に、研究・教育・社会貢献に加え、都市シンクタンク機能と技術インキュベーション機能を発揮することで、都市の課題解決やイノベーション創出にも積極的に取り組んでまいります。

また、2025年大阪・関西万博においては飯田グループホールディング様と共同で唯一かつ国内初となる企業と大学との共同パビリオンを出展しており、人工光合成技術や未来都市のあり方を提案する展示を行っています。その他にもボランティアリーダーの育成、医療救護体制への支援、大阪ヘルスケアパビリオンのアクアポニックス「いのちの湧水(いのちのいずみ)」など本学研究成果や学生の創造力を活かした多彩な取り組みを展開し、地元の大学として成功に向けたサポートを行っています。万博を契機に、次世代の都市づくりや人材育成において、我々にとっても得難い経験としようと思意込んでおります。

引き続き「対話と挑戦」をモットーに教職員一丸となり、さまざまなステークホルダーの皆さまと共に、大阪、日本、世界のwell-beingに資し、持続可能な社会や暮らしに寄与する輝ける大学にしたいと考えております。また受験生、ご支援いただいている大阪府市、国、企業、さらにはご寄附いただいた方、多くの卒業生、同窓生など、多くの皆さま方に大学は支えられているという事に感謝し、皆さまからのご期待に応えていきたいと存じます。今後とも、ご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

公立大学法人大阪 理事長 福島 伸一



## MISSION

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、  
広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、  
社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、  
その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与します。



## 大阪公立大学 概要 学部・学域・大学院

大阪公立大学には、時代のニーズに応える多彩な学部・学域・研究科が設けられています。

入学定員(学士課程)は2,852人で、  
大阪大学、東京大学に次いで国公立大学で第3位の規模です。

### 学部・学域

|           |      |       |
|-----------|------|-------|
| 現代システム科学域 | 理学部  | 看護学部  |
| 文学部       | 工学部  | 生活科学部 |
| 法学部       | 農学部  |       |
| 経済学部      | 獣医学部 |       |
| 商学部       | 医学部  |       |

**12** 学部・学域

### 大学院

|             |               |
|-------------|---------------|
| 現代システム科学研究科 | 農学研究科         |
| 文学研究科       | 獣医学研究科        |
| 法学研究科       | 医学研究科         |
| 経済学研究科      | リハビリテーション学研究科 |
| 経営学研究科      | 看護学研究科        |
| 都市経営研究科     | 生活科学研究科       |
| 情報学研究科      |               |
| 理学研究科       |               |
| 工学研究科       |               |

**15** 研究科

創薬科学研究科  
2026年4月新設

多様な学術領域を持つ  
総合大学として、「総合  
知による創薬」の実現  
を目指します。

### 入学定員 (学士課程)

国公立大学 第**3**位

### 学生数

約**16,000**人

### 教職員数

約**3,400**人  
(内 教員約1,400人 職員約2,000人)

## 都市シンクタンク機能 & 技術インキュベーション機能

大阪公立大学は、教育・研究・社会貢献に加え、都市シンクタンク機能と技術インキュベーション機能を新たな柱として担い、森之宮キャンパスを司令塔に、未来を切り拓く知の拠点として、持続可能な社会の実現に向けて挑戦を続けます。

### 都市シンクタンク機能

#### 都市課題の解決＋未来社会の描出・創造

行政、企業、地域コミュニティとの連携により、「大学の知」をあらゆる大学人(学生・教員・職員)の活動をととして社会実装し、現代社会への貢献や未来社会の創成に繋いでいきます。



#### 3層構造で、社会課題の解決・未来社会の創成へ

##### 第1層は「地域課題の解決」。

地域のニーズと大学のシーズのマッチングにより、顕在化している地域社会の課題解決に取り組み、地域貢献度の向上に努めます。

##### 第2層は「都市課題の解決」。

地域社会の課題解決に向けた研究成果の社会実装に取り組みます。また、行政機関などとの協議を重ねることにより、未来の地域社会さらには都市が抱えるであろう課題を顕在化させるとともに、顕在化した課題の解決に向けた取り組みを始めます。

##### 第3層は「未来社会の創成」。

「未来社会創成研究所(仮)」を設立し、将来気候や人口問題などを視野に入れた起こり得る未来社会をさまざまな視点で描出し、望ましい未来社会を創成するための施策について、国内外に情報発信していきます。

#### 具体的な取り組み内容

##### 「共創研究グループ」を結成

大学と行政、民間企業等との共創による「都市シンクタンク」に資する新たな研究テーマを創出して、これに取り組むための共創グループを結成し、遂行することを支援する事業「共創研究グループ結成支援事業(設立支援事業)」を2024年度に創設。

さらに、研究テーマを事業化して社会実装することを支援する事業「共創研究グループ結成支援事業(加速支援事業)」を2025年度に創設しました。

##### 府市との合同企画会議を実施

大阪府・市幹部職員と法人・大学の役員・教職員が定期的に協議する場としてOMU・府市合同企画会議を設置。

参加者が課題認識と自由な発想による意見交換を行うとともに、あるべき姿を追求し、国や自治体に対する政策の方向性や具体的な施策の提案につなげていきます。



#### 「J-PEAKS」を推進！MulCoプロジェクト

令和5年度文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に、「イノベーションアカデミー事業の推進によるマルチスケールシンクタンク機能を備えた成熟都市創造拠点の構築」として申請し、公立大学で唯一、採択されました。

J-PEAKSで獲得した資金を基に、教職員・学生による多様な共創活動(Multilevel Co-Creation)により、大学の研究成果を社会実装するとともに、未来社会像を描き、これに向かって社会を先導するための研究核を創出していくアクションプランをMulCoプロジェクトと名付け、大学全体で取り組みます。

### 技術インキュベーション機能

#### 研究シーズを活かした 産学官民共創によるイノベーション創出

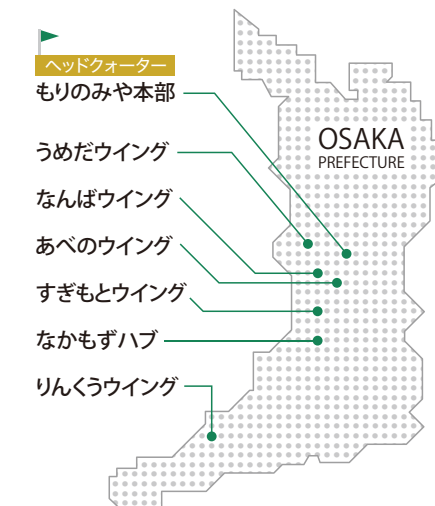
先端技術を基に、総合大学の強みを活かして専門知を総合知へと昇華・醸成させてイノベーションを創出し、地域・産業界等との共創により新産業創出や都市課題の解決に取り組む。

#### 「都市シンクタンク機能」、「技術インキュベーション機能」を推進する仕組み

##### イノベーションアカデミー

SDGs、Society5.0、DX、脱炭素、環境、防災などに関連するさまざまな社会課題に対し、「社会課題の本質の解明～社会実装～価値創造」まで、多様なフェーズでの産学官民の共創活動を推進

- 「イノベーションアカデミー」事業では、「産学官民リビングラボ」機能を、大学が持つすべてのキャンパスに配置し、「ネットワーク型のイノベーションエコシステム」拠点を構築します。
- 産学官民が課題の本質を議論し、その解決に向けたプロジェクトをデザイン。リビングラボとして、仮説検証、社会実証実験を推進し、新しい価値を創造するイノベーション創出拠点です。



#### 2025年3月、中百舌鳥キャンパスにスマートエネルギー棟を開設



##### 1F:オープンイノベーションスペース

イノベーションエコシステム拠点として、アントレプレナーシップ教育カリキュラムの演習やハッカソン/テックソン(技術ベース価値創造)イベント、行政や企業と連携したアイデアソン、スタートアップ支援のピッチイベントなどに無料開放



##### 2F:学内研究所と分析機器企業の共創 3F:大手企業との共創の場

最先端評価機器を用いた共創研究や人材育成、データ連携、ネットワークプラットフォーム

#### MulCoプロジェクト キックオフシンポジウム

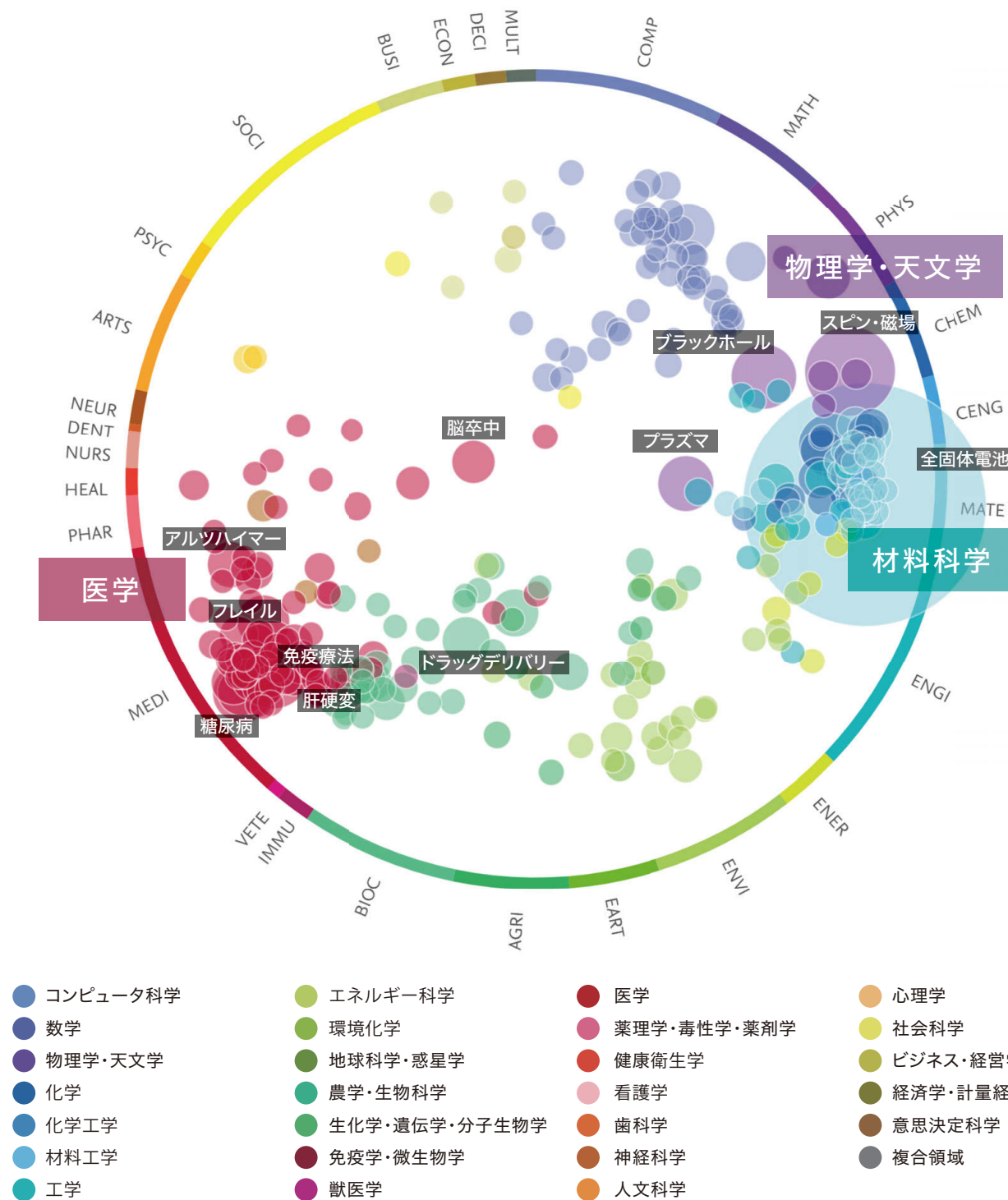
2024年9月3日(火)、グランフロント大阪 ナレッジシアター(大阪市北区)で、J-PEAKS MulCoプロジェクトキックオフシンポジウムを開催しました。当日は企業関係者など、約330名の方々にご参加いただきました。





## 「知の拠点」となる高度研究型大学を目指して

研究力分析ツールSciValで分類されている約96,000の研究トピックのうち、論文被引用数などのTop1%に該当する分野をマッピングしたものです。世界的に見ても本学が研究を牽引してきた「全固体電池」の材料科学分野や医学、宇宙物理などの分野に本学の強みが表れています。



※SciVal 2025年6月13日更新データ、2020年～2025年の論文より

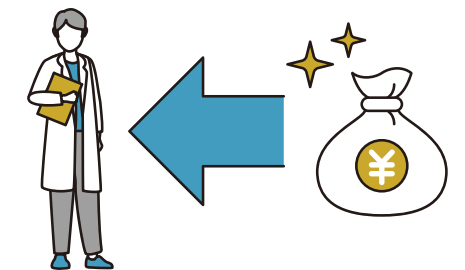
## 数字で見る研究力

### 『自ら稼ぐ』大学

#### 外部資金獲得状況(2024年度)

**3,783件 138億円**

(2023年度 3,986件 117億円)



#### 共同研究(2024年度)

**591件**

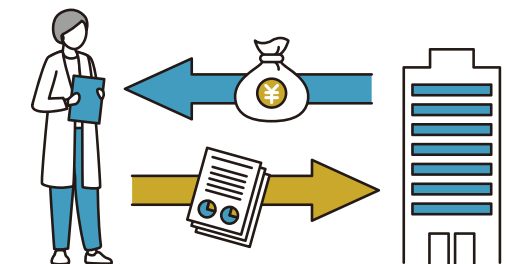
(2023年度 563件)



#### 受託研究(2024年度)

**474件**

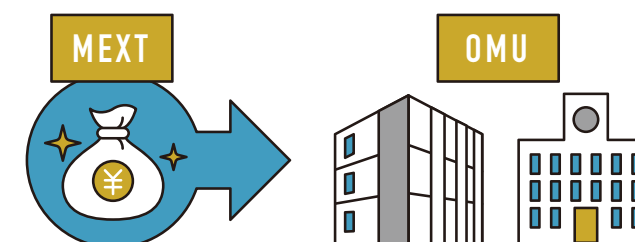
(2023年度 480件)



#### 文部科学省科学研究費補助金(2024年度)

**1,451件**  
**25億1,523万円**

(2023年度 1,684件 26億2,632万円)





## 研究拠点

## 大阪発、世界レベル

フルラインナップの研究分野の強みを生かし、  
医工連携や防災、エネルギー関連をはじめ、多くの分野でのシナジー効果が考えられます。  
これまで積み上げてきた産学官民共創の場としての役割を発揮して、  
大阪のみならず、日本、世界の課題解決に貢献していきます。

## 人工光合成研究センター

共同利用・共同研究拠点

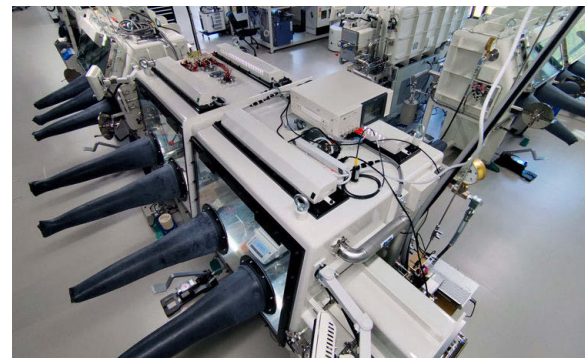
本センターは、日本のみならず世界の人工光合成研究の拠点として広く知られています。植物の光合成を人工的に模倣して燃料等を作り出すことを目指し、新たな技術の確立や実用化に向けて、産学官連携研究に取り組んでいます。2025年大阪・関西万博において、飯田グループホールディングスと本学が共同で出展したパビリオンでは、本センターの研究内容が主たる展示要素となりました。



## 全固体電池研究所

共同利用・共同研究拠点

本学には全固体電池の研究に携わる研究者が多数存在し、世界的に研究をリードしてきました。本研究所では、工学・理学等のさまざまな分野の研究者が、人的交流や研究交流を行い、発展的な研究を進めています。2025年には、中百舌鳥キャンパスに新設されたスマートエネルギー棟にも新拠点を構え、さらなるイノベーションを目指します。



## 都市科学・防災研究センター

共同利用・共同研究拠点

本センター(UReC)では、都市が直面している諸課題に焦点をあて、課題解決に向けた学際的研究を推進するとともに、都市科学および防災に関する国内外の若手人材の育成を担っています。2024年には、東アジア都市間の包摂的なネットワークの形成を目指して、第13回東アジア包摂都市ネットワーク・ワークショップをSaint Francis University(香港)を会場に、香港各地での現地交流も兼ねて開催しました。日本や韓国、台湾からの多くの参加者で賑わい、日本の堺市、韓国のソウル市城東区をはじめとする政策担当者による報告など、各地の都市間の交流が大いに促進されました。



## 数学研究所

共同利用・共同研究拠点

数学・理論物理の協働・共創、若手研究者を中心とした国際的な頭脳循環および国際的な研究者コミュニティの発展、研究分野の拡大と異分野融合、社会貢献・地域貢献活動の機能強化を目標に、2003年9月に設立されました。また、1990年以来約30年間にわたって名古屋大学で開催されていた「日本数学コンクール」は、2022年度より本研究所との共催イベントとして開催され、参加した小中高校生たちの交流も活発に実施されています。



## 附属植物園

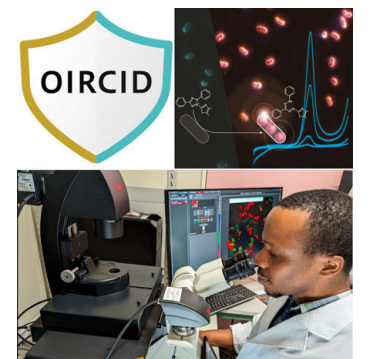
共同利用・共同研究拠点

野外で生育可能な300種以上を植栽し、わが国の代表的な11種類の樹林型の復元やメタセコイアに代表される新第三紀の森林復元、絶滅危惧植物の保全活動など、植物学の基礎研究対象となる多くの植物の収集と保存を進めています。2025年春に開催された『OMUネイチャーフェスタ』では、豊富な自然環境や生物多様性を体感できる植物園セミナーやツアーを実施しました。



## 大阪国際感染症研究センター

本センター(OIRCID)は、「感染症に強いまちづくり」を目指し、感染症を個人や病原体を対象としたミクロの視点ではなく、社会の疾患ととらえた「マクロ感染症学」を実践する拠点です。OIRCIDは、大阪府市や大阪健康安全基盤研究所が参画し、産学官民連携で大都市大阪が抱える感染症対策「メトロポリタンヘルス」の課題に取り組むことで、都市シンクタンク機能を発揮しています。2023年から開始している関西国際空港での下水サーベイランスをはじめ、「感染症に強いまちづくり」に向けたプラットフォーム構築や感染制御システムの開発にも取り組んでいます。



## 大阪健康長寿医科学センター

2027年度開設予定の本センターは、日本初の認知症に特化した医学部附属の研究所・病院及び大阪市立介護老人保健施設の3施設で構成されます。研究所は認知症基礎研究、新規創薬・診断薬開発の拠点とし、病院は認知症及び身体合併症治療、リハビリテーションに重点を置き健康長寿医療に取り組み、センターとして高齢化社会における課題解決に貢献します。

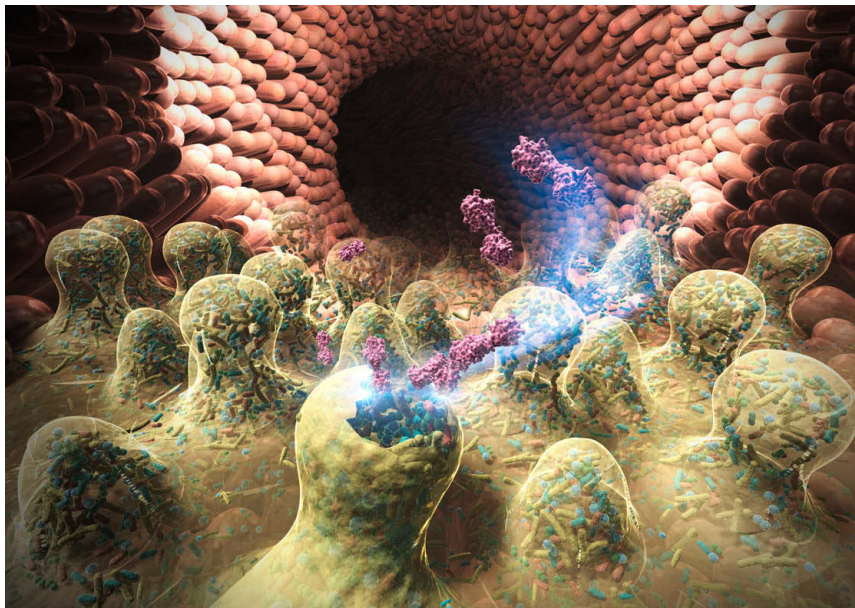




## 研究トピックス

### 毒性の強い腸内細菌が造血幹細胞移植の重篤な合併症を引き起こすことを発見 -ファージ由来の溶菌酵素による新規治療薬の開発へ-

掲載誌: Nature  
掲載日: 2024年7月11日(オンライン掲載)



臓器移植では、免疫細胞が移植された臓器を異物とみなして攻撃し、拒絶反応が起こります。白血病治療などで行われる造血幹細胞移植では、移植された造血幹細胞由来の免疫細胞が、移植患者の臓器を異物とみなし攻撃する「移植片対宿主病(GVHD)」を発症することがあります。

医学研究科ゲノム免疫学の植松 智教授、藤本 康介准教授らと東京大学の共同研究グループは、造血幹細胞移植を受けた患者の一部の腸内に存在する毒性の強いエンテロコッカス・フェカリス(*E. faecalis*)が、GVHDの発症に関与することを発見しました。さらに、メタゲノム解析により、*E. faecalis*のバイオフィルムごと菌を溶解することが可能な、新規の溶菌酵素(エンドライシン)の精製に成功しました。

このエンドライシンを毒性の強い*E. faecalis*を定着させたGVHDモデルマウスに投与したところ、GVHDの悪化を抑制し、死亡率が大幅に改

善することを確認しました。本研究で得られたエンドライシンは、今後GVHDの新規治療薬の開発に繋がることが期待されます。

### クマノミが選んだエサの積極的な給餌は、イソギンチャクの成長を支える

掲載誌: Scientific Reports  
掲載日: 2025年2月26日

クマノミはイソギンチャクを住処としており、毒の棘を持つイソギンチャクの触手によって捕食者から守られています。一方、クマノミはイソギンチャクの触手を捕食する魚類を追い払うなどの利益を宿主に与えるという、相利共生の関係が知られています。理学研究科 安房田 智司教授、小林 優也大学院生(博士後期課程3年)らの研究グループは、愛媛県の室手海岸においてクマノミに餌を与えた際、イソギンチャクの触手に餌を付ける行動を目撃したことから、両者の共生について調査を開始。クマノミに与えた餌が本当に宿主のイソギン

チャクによって消費されるのか、餌の大きさや種類が宿主への給餌に関係があるのか、給餌により宿主の成長が促進されるのかを実験しました。その結果、小さな動物性の餌や柔らかい緑藻はクマノミが食べ、大きな動物性の餌は宿主に与えることが分かりました。また、給餌された餌は宿主によって消費され、クマノミに給餌された宿主は、給餌されなかった他のイソギンチャクよりも高い成長率を示しました。宿主の成長の促進は、住処が大きくなる



などのクマノミの利益にもつながります。本研究結果により、給餌は両者にとって、これまで考えられていた以上に重要であることが示唆されました。

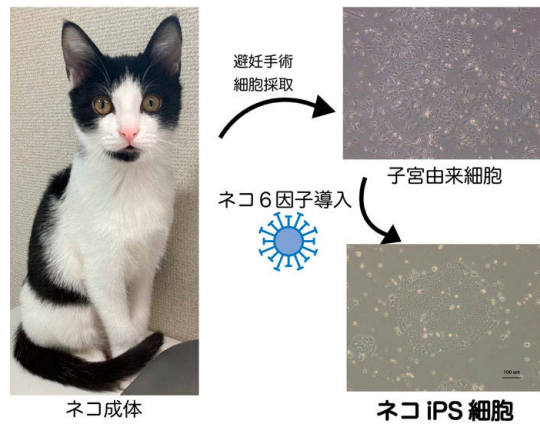
### 世界初! 遺伝子挿入がなく高品質なネコiPS細胞の安定作製に成功

掲載誌: Regenerative Therapy  
掲載日: 2024年9月2日(オンライン掲載)

猫や犬への高度医療が発展する中で、iPS細胞を用いた新規治療法の開発や、遺伝性疾患などの病態解明への応用が期待されています。しかし、猫は犬に比べて研究事例が極めて少なく、高品質なネコiPS細胞はありませんでした。

獣医学研究科の嶋谷 晋吾教授、木村 和人客員研究員らと、アニコム先進医療研究所株式会社、ときわバイオ株式会社の共同研究グループは、ネコ由来の6つの細胞初期化因子を導入したベクター※を開発し、不要な遺伝子

の挿入がなく、三胚葉への分化能力のある高品質なネコiPS細胞の作製に、世界で初めて成功しました。また、本ウイルスベクターを用いることで、避妊手術時に廃棄される子宮より採取した細胞からも、ネコiPS細胞の作製に成功しました。今後、本研究で作製したネコiPS細胞を活用することで、慢性腎臓病などの病態解明や、新たな細胞治療法の開発が期待されます。



※遺伝子を細胞内に入れるのに必要な遺伝子の運び屋。本研究ではセンダイウイルスの遺伝子発現系を基に開発された、ステルス型RNAベクター(SRVベクター)を使用した。

### 温暖化が永久凍土の森林へ与える影響は? CO<sub>2</sub>放出・吸収量の推移を20年間観測

掲載誌: Proceedings of the National Academy of Sciences  
掲載日: 2024年10月25日(オンライン掲載)

アラスカやシベリアなど北半球の高緯度地域には永久凍土があり、その上には森林が広がっています。温暖化が進むと、永久凍土が融けて、中に含まれた大量の有機炭素がCO<sub>2</sub>として放出される可能性がある一方、永久凍土上の森林の成長が促進され、CO<sub>2</sub>の吸収量が増加する可能性もあります。そのため、温暖化が永久凍土全体に与える影響を調べるためには、長期間の観測が必要です。

農学研究科 植山 雅仁准教授と、信州大学、新潟大学の共同研究グループは、森林のCO<sub>2</sub>の放出・吸収量をリアルタイムで観測できる気象観測タワーを用いて、アラスカの森林における推移を2003年から20年間観測。分析の結果、2013年～2023年におけるCO<sub>2</sub>吸収量は、その前の10年間に比べて約20%増加しており、その主な



米国アラスカ州フェアバンクス市の永久凍土上のクロトウヒ林に設置された、森林のCO<sub>2</sub>吸収を評価するための気象観測タワー。

要因は近年の降水量増加と、CO<sub>2</sub>濃度の上昇による光合成量の増加であることが明らかになりました。

### 2026年4月、創薬科学研究科を新設

2026年4月に創薬科学研究科(博士前期課程・博士後期課程)を新設します。社会環境の変化により創薬の課題が複雑化する中、新たなアプローチが求められ、多様な専門領域との連携・融合が一層重要となります。本学では「総合知による創薬」を理念に、創薬科学

研究科において、異分野融合型の創薬科学教育・研究を推進し、高度な専門知識と能力を持つグローバルな研究者の育成を目指すとともに、将来的にはアカデミアと企業を繋ぐ「創薬ハブ」としての役割を果たすことを目標としています。





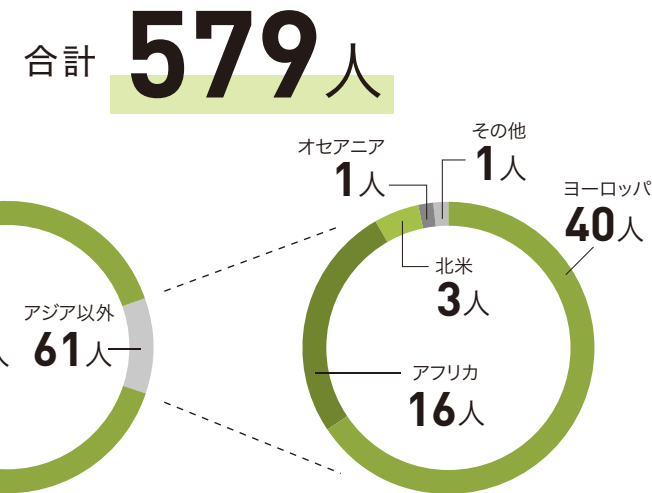
## 数字で見る国際交流

## 世界から選ばれる大学へ

～国内外の研究者・学生が集う、多文化共生キャンパスの実現を目指して～

## 受入留学生の地域別割合

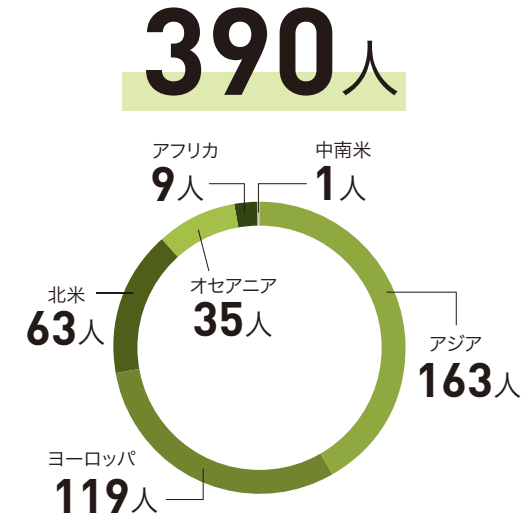
2024年5月時点



※大阪公立大学、大阪市立大学、大阪府立大学の合計値

## 地域別の派遣学生数

2024年度

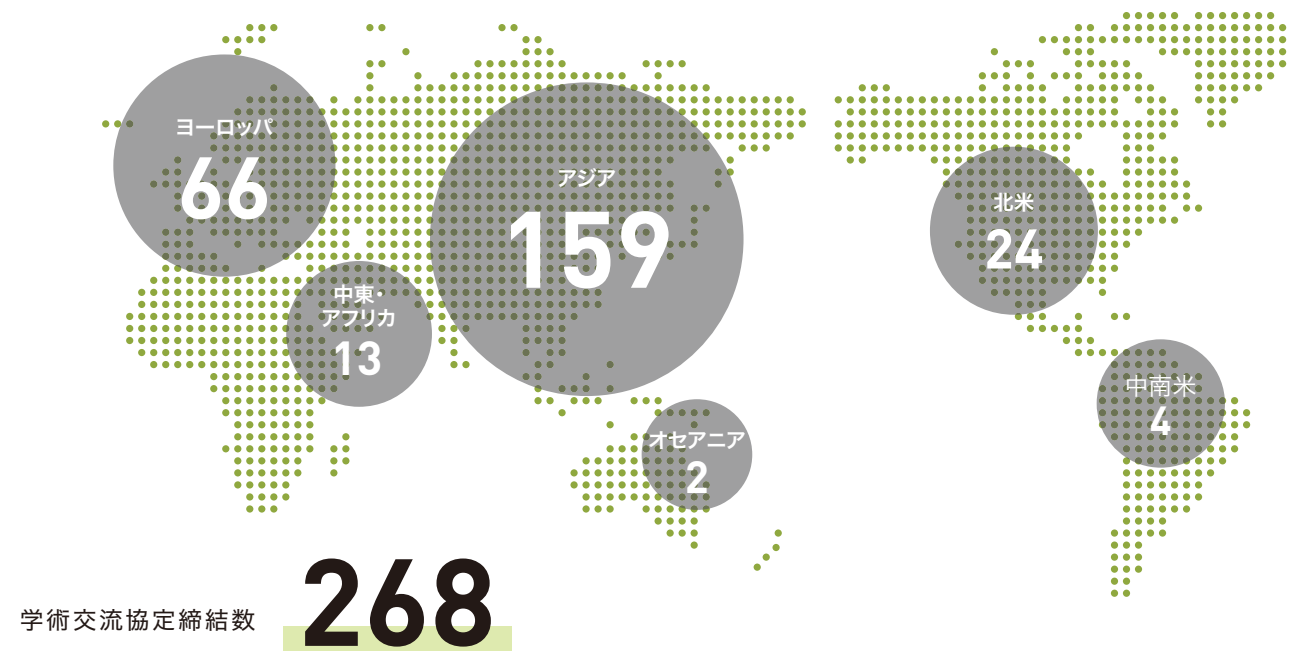


※複数国・地域に派遣のものも含む

## 海外大学との交流状況

2025年4月1日現在

大阪公立大学は41ヶ国・地域にあるさまざまな大学・研究機関と学術交流協定を結んでいます。

2030年度に向けて、  
外国人研究者や外国人留学生の「倍増」を目指す

## 国際化推進の取り組み

## グローバル人材の育成

- 一部研究科にて、秋入学制度を導入
- 学士課程に秋入学対応組織の設置を目指す
- 留学生の受け入れ拡大、環境整備
- 外国語による教育・研究指導体制の充実
- 日本人学生が多彩な国際経験を積むための支援

## キャンパスの国際化

- 多文化共生キャンパスの実現
- 各種ステークホルダー向け国際的情報発信の充実

## 国際的研究拠点の構築

- 外国人研究者の雇用促進、環境整備
- 国際的な研究活動・ネットワークの拡充
- 海外研究拠点の充実・活性化

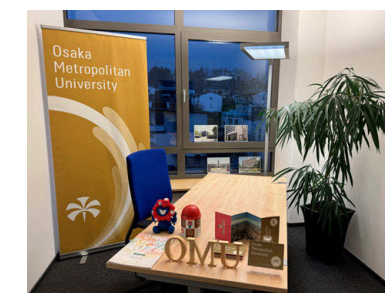
海外拠点 上海、ハノイ、カイザースラウテルン

## 国際交流トピックス

## ドイツ人工知能研究センター(DFKI)との共創

2024年12月、連携協定を締結しているDFKI内に大阪公立大学カイザースラウテルン拠点を開設しました。この拠点は、情報学研究科の黄瀬 浩一教授とDFKIとの25年以上にわたる交流を基盤にして設置されたものです。2024年には、先端国際共同研究推進事業の「TopのためのASPIRE」AI・情報分野に、研究課題が採択され、国際共同研究を開始しました。

2025年1月には、本共同研究のキックオフイベントが大阪で開催され、DFKIからはAndreas Dengel教授を含む8名の研究者が来日。2日間にわたり本学の情報学研究科や医学研究科の研究者及び学生と交流を深めました。



大阪公立大学カイザースラウテルン拠点事務室



キックオフイベント参加者の集合写真



大学ランキング

大阪公立大学は2030年に世界大学ランキング500位以内、10年後に200位以内を目指します。

THE  
世界大学ランキング  
2025  
  
THE World University Rankings

世界順位 1,201-1,500位

国内順位 31-62位

ランクイン大学数：世界2,092大学、日本119大学

QS  
世界大学ランキング  
2026  
  
QS World University Rankings

世界順位 901-950位

国内順位 20-22位

ランクイン大学数：世界1,501大学、日本47大学

研究分野別QS世界大学ランキング2025で  
3分野が世界500位以内にランクイン

- Agriculture & Forestry (401-475位)
- Chemistry (451-500位)
- Physics & Astronomy (451-500位)

世界大学学術  
ランキング  
2025  
  
Academic Ranking of  
World Universities

世界順位 401-500位

国内順位 11-13位

ランクイン大学数：世界1,000大学、日本29大学

THE  
インパクトランキング  
2025  
  
THE Impact Rankings

世界順位 401-600位

国内順位 14-21位

ランクイン大学数：世界2,318大学、日本68大学

THE  
日本大学ランキング  
2025  
  
THE Japan University Rankings

国内順位 33位

ランクイン大学数：日本257大学

学生の活躍

スポーツ庁長官賞を生活科学部の学生が受賞

「スポーツ・健康まちづくり学生コンペティション2024」にて、生活科学部居住環境学科4年生の松本 恵利香さんと北村 和津さんのチームが、スポーツ庁主催デザイン部門の最優秀賞であるスポーツ庁長官賞を受賞しました。受賞作品である「産学官民一体のまち丸ごとスポーツジム化計画」は、主にJR阪和線(美章園駅から杉本町駅)沿いの地域を対象に6つのエリアに分け、「メインターゲット」と「エリアの特徴」から「スポーツ空間デザインのコンセプト」を決定し、必要な産学官民連携の仕組みを提案しました。受賞後は、大阪市の山本 剛史副市長、山田 国広経済戦略局理事をはじめ、経済戦略局スポーツ部の方々に受賞作についてプレゼンテーションをする機会が設けられ、意見交換が行われました。



ボランティア団体が  
第50回産経市民の社会福祉賞を受賞

ボランティア団体「中浦まりおと仲間たち」が、2024年11月に「第50回産経市民の社会福祉賞」を受賞しました。この賞は、ボランタリーな活動によって、暮らしにくい環境にある人々や弱い立場の人々、青少年らを支援している一般市民(個人)やグループに授与されるものです。「中浦まりおと仲間たち」は、障がい者の自立が一般的ではなかった1980年代から、大阪府立大学・大阪市立大学・大阪公立大学の学生が中心となり、中浦 眞里雄さんの生活に寄り添い、ご本人の意思を尊重しながら介助ボランティアを続けてきました。



高専ろぼっと倶楽部が  
高専ロボコン全国大会2連覇を達成

大阪公立大学工業高等専門学校において、ロボット製作をおこなう部活動「ろぼっと倶楽部」の銀火(ギンガ)チームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024全国大会」において、2年連続の全国優勝を果たしました。本大会は毎年異なる競技課題に対し、アイデアを駆使してロボットを製作し、競技を通じてその成果を競うもので、今回は全国から予選を勝ち抜いた計26チームが参加。銀火チームは、競技で重要となる「安定性」と「ミッションコンプリートのスピード」の両立を追求することで、優勝を掴み取りました。



国家試験合格状況(2024年度)

| 資格名          | 合格者数 | 合格率   | 全国新卒合格率 |
|--------------|------|-------|---------|
| 医師 国家試験      | 98   | 99.0% | 95.0%   |
| 獣医師 国家試験     | 37   | 86.0% | 83.8%   |
| 看護師 国家試験     | 168  | 99.4% | 95.9%   |
| 保健師 国家試験     | 43   | 100%  | 96.4%   |
| 管理栄養士 国家試験   | 60   | 90.9% | 80.1%   |
| 社会福祉士 国家試験   | 57   | 98.3% | 75.2%   |
| 助産師 国家試験     | 6    | 100%  | 99.3%   |
| 理学療養士 国家試験   | 23   | 100%  | 95.2%   |
| 作業療法士 国家試験   | 25   | 96.2% | 92.5%   |
| 司法試験(既修了者含む) | 9    | 25.0% | 34.84%  |



## 大阪・関西万博トピックス

## 飯田グループ×大阪公立大学共同出展館

国際博覧会では初めてかつ  
唯一の企業と大学によるパビリオン出展

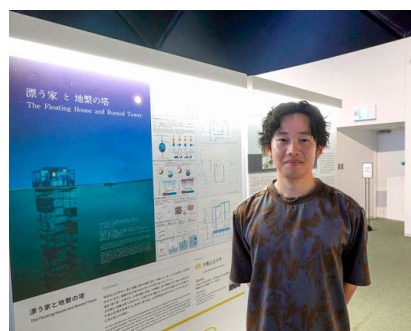
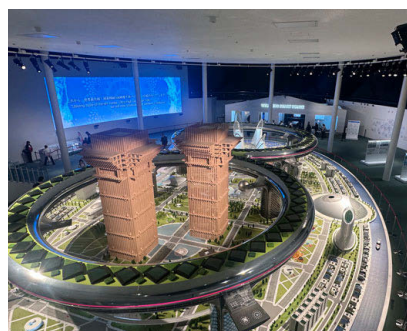
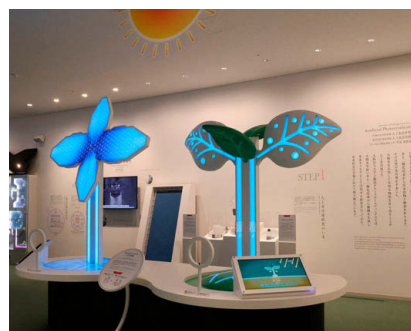
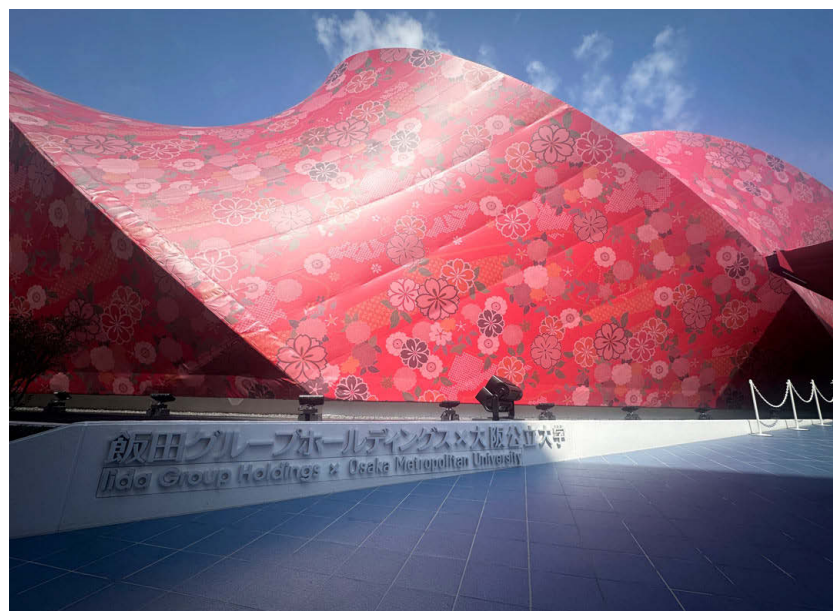
「人・社会・地球の健康」をテーマに共同研究を行ってきた飯田グループとパビリオンを共同出展しました。住宅における未来のエネルギー像としての「人工光合成技術」の展示、生活空間で収集した健康データをAI解析によって未病の改善につなげる仕組みを体感できる「ウエルネス・スマートハウス®」の展示、長径24m・短径15mの巨大なジオラマを用いた「ウエルネススマートシティ®」を展示しました。

パビリオンは、伝統と進化の融合、そして持続、循環、継承、進化を象徴する「サステナブル・メビウス」をテーマに、メビウスの輪を応用した三次元の構造物に、最新技術を駆使した西陣織を全面に覆わせた、かつてない規模の西陣織建築となっており、2つのギネス世界記録「世界最大の西陣織で包まれた建物」及び「世界最大の扇子形の屋根」に認定されました。

また、学内で実施した『「未来の住宅」デザインコンテスト』の受賞作品の展示や、パビリオンデー「伝統と進化の融合」の舞台出演など、さまざまな形で学生も参画しています。

2025年8月2日の飯田グループパビリオンデーには、EXPOホール「シャインハット」にて『伝統と進化の融合』の舞台を上演しました。歌舞伎役者の市川團十郎氏をはじめとする豪華出演陣が「JAPAN THEATER『SEIMEI』」の万博スペシャルバージョンを披露。世界的ダンサーのケント・モリ氏から前日に指導を受けた本学の学生たちもダンスを披露しました。

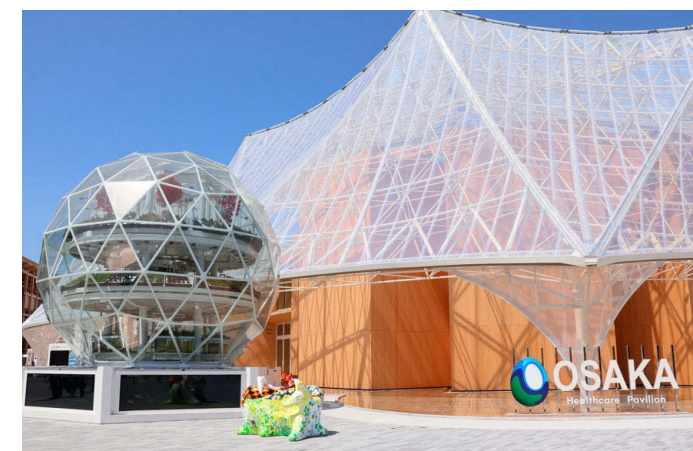
大阪府の吉村 洋文知事をはじめ国内外から多くの方にご来館いただき、最新の共同研究成果を世界に向けて発信しました。

本学の研究成果が大阪ヘルスケアパビリオンの  
アクアポニックス「いのちの湧水(いずみ)」に

自然界に学ぶサステナブルな循環型食料生産を  
体現するアクアポニックス

オール大阪で出展する大阪ヘルスケアパビリオンに、植物工場研究センター（PFC）・学部研究科教員らの研究成果およびPFCコンソーシアム会員の技術を取り入れたアクアポニックス「いのちの湧水(いのちのいずみ)」を設置しています。アクアポニックスとは、魚と植物が共生する循環型食料生産システムのことであり、パビリオン前に地球をイメージした透明な球体を設置し、水耕栽培と陸上養殖の循環型生産システムを展示しています。

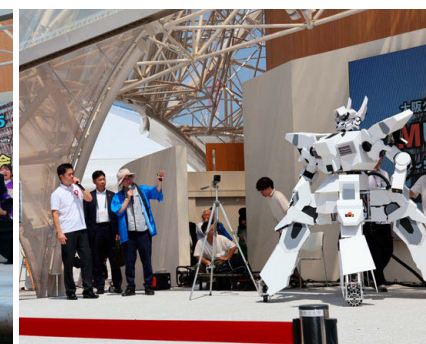
いのちの循環の大切さを子どもたちに伝えとともにSDGs達成への貢献を目指す取り組みの一つです。



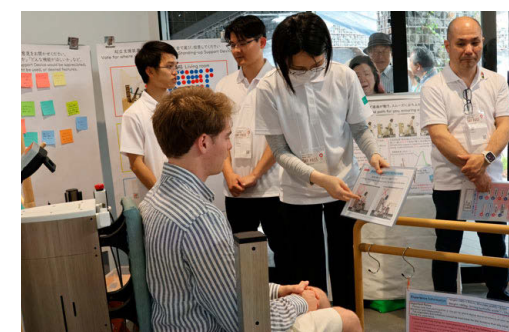
## OMU EXPO 2025 ～学生による真夏の祭典～

「いのち輝く未来社会」の主役である  
学生らによるエネルギー溢れるステージイベント

2025年8月30日(土)、大阪ヘルスケアパビリオンリボンステージにて、アカペラやダンス、ファッションショー、演奏、ロボット操作体験イベントなど、多種多様なパフォーマンス、体験型イベントをリレー形式で実施しました。大阪府の吉村 洋文知事も訪れ、ロボット操作を体験しました。



工学研究科の高井 飛鳥助教が「フューチャーライフ万博・フューチャーライフエクスペリエンス」で  
起立支援装置の展示&シンポジウムを開催  
フューチャーライフヴィレッジ



「GC・SI副専攻ソーシャル・イノベーション(SI)コース」の  
授業を履修中の学生が、  
SDGsにつながる提言を発表  
ポップアップステージ東





## 社会連携・地域貢献トピックス

### 読売新聞大阪本社とタイアップ「探Qみらいファーム」

次世代の農と食を担う人材育成を目指す共創事業を開始

2024年3月、次世代の農と食を担う人材育成を目指して、本学と読売新聞大阪本社がタイアップした共創事業「探Qみらいファーム」を開始しました。

小学生15人が、10か月をかけて米作りに挑戦。都市農業での作物栽培・収穫作業を体験しながら最新の農学研究やテクノロジーに触れ、農業が持つ課題と可能性などを総合的に学ぶプログラムです。

さらに広く活動を発信することで、「農」や自然、地球環境に関する現状や課題を考えてもらう契機とし、直接の農業従事者に限らず関連産業も含め、持続可能な「農」と「食」を支えていく人材の育成に寄与することを目指します。

2025年4月からは2期生による活動を開始しています。



### 塩野義製薬株式会社と包括連携協定を締結

産学官民連携による感染症に強いまちづくり  
「大阪モデル」構築を目指して

2025年3月3日、大阪国際感染症研究センター（OIRCID）を中心とした臨床研究ネットワークの構築、人材育成の推進、共同研究などの連携を進め、大阪府ひいては国内外における公衆衛生の向上並びに、人々の健康の維持・増進に寄与することを目的として、塩野義製薬株式会社と包括連携協定を締結しました。

感染症に強いまちづくりの実現に向けて、都市シンクタンク機能を発揮し、産学官民共創で、大阪のみならず国内外の感染症対策や専門人材の育成などさまざまな社会問題の解決に貢献していきます。



法人の経営機能や大学の研究教育機能の充実を目指し、国内外の大学をはじめ、地方公共団体、非営利団体、企業等と協定を結び、相互に連携協力を行っています。

近年の協定先

大学、研究機関

国立大学法人 東北大学、国立大学法人 長崎大学、国立大学法人 大阪大学、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構、ドイツ人工知能研究センター（DFKI）

企業

西日本電信電話株式会社、TJグループホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、株式会社島津製作所、株式会社堀場製作所、Osaka Metro、日本放送協会 大阪放送局、非破壊検査株式会社、関西電力株式会社、東洋紡株式会社、大阪信用金庫

行政機関等

独立行政法人国際交流基金 関西国際センター、堺市、大阪市、在大阪オランダ王国総領事館、大阪市城東区役所、社会医療法人大道会 森之宮病院、独立行政法人都市再生機構 西日本支社、大阪商工会議所、公益財団法人 大阪観光局、一般社団法人 KIX泉州ツーリズムビューロー

### UReC主催「いのちを守る都市づくり コミュニティ防災フォーラム2025」

災害からいのちを守るためにできることを考える  
～医療従事者・報道関係者・市民～

2025年2月22日、都市科学・防災研究センター（UReC）は、1995年の阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、「いのちを守る都市づくり コミュニティ防災フォーラム2025」を開催しました。

被災地でボランティア活動を行っている学生たちの活動報告や、UReCの教員らによるパネルディスカッションなどを実施。災害現場での救護に従事してきた医療従事者、本学と包括連携協定を締結しているNHK大阪放送局のチーフプロデューサーをパネラーに迎え、参加市民と一緒に「いのちを守る」都市づくりについて活発に議論しました。



### 大学で学ぶことの楽しさを感じてもらう「公大授業」

大学の授業やキャンパスの雰囲気を経験できる授業公開イベント

「公大授業」では、文学部・理学部・生活科学部の教員によるさまざまな分野の授業の受講や文学部学生とのフリートーク、大学図書館として国内最大級の規模を誇る杉本図書館の見学会を行っています。高校生を主な対象として実施していますが、2024年度には幅広い年代の方、延べ2,000人以上に参加いただきました。



### 医学部附属病院DMATが 中学校で災害医療・救命講習を実施

いざというときに役立つ知識と体験を～救命教育活動～

2024年12月5日、医学部附属病院の災害派遣医療チーム『DMAT』が、大阪市立堀江中学校の1年生約320人を対象に体験型出張講座を実施。令和6年能登半島地震の被災地の医療支援にも派遣された、DMATに所属する医師や看護師らが講師を務めました。医師・看護師・傷病者役に分かれて治療の優先度を定めるトリアージや、訓練用人形を使用してAED（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生法（胸骨圧迫）の模擬体験などを実施しました。





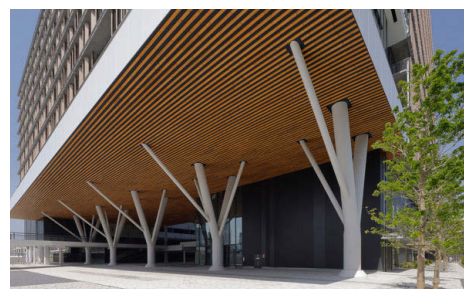
## 2025年9月、森之宮キャンパス開設

良好な交通アクセスかつ大阪の東西都市軸の東部重要拠点である森之宮に立地するメインキャンパスとして、2025年9月に森之宮キャンパスを開設。コンセプトは「知の森」で、地上13階建、高さ約60m、大阪城天守閣から見て生駒山の稜線をこえない高さとしています。中庭からは大阪城を眺めることができます。

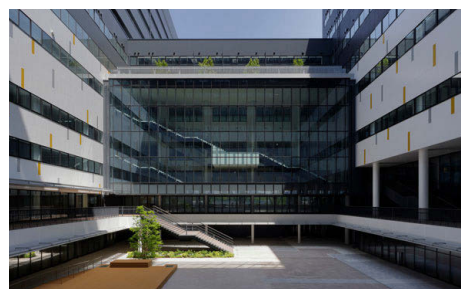
3層からなるピロティを支える伸びやかな形状の「樹形柱」、外壁に「コモレビスクリーン」という縦型ルーバーを配置する

ことで強い日差しを適度に遮り、やわらかな光を建物内部に取り入れます。

通常の大学では食堂・体育館・図書館などは、独立した建物であることが一般的ですが、森之宮キャンパスでは一棟に全て集約。特に「ライブラリー」は基幹教育エリアの中央に位置し日常動線上に配置しますので、学生が日常的に利用するとともに、地域住民や企業との連携、イノベーションを生み出す場となります。



伸びやかな形状の「樹形柱」が設置されたエントランスピロティ



食堂・体育館・ラウンジなどと近接する中庭



13階展望テラスから眺める大阪城

### 2028年、森之宮1.5期キャンパス開設予定

Osaka Metro新駅、駅ビル、歩行者空間など、2028年春からのまちびらきをめざす、城東区のまちづくりに本学はコミットします。

## キャンパス

### 杉本キャンパス



- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 理学部
- 生活科学部  
(居住環境学科  
人間福祉学科)

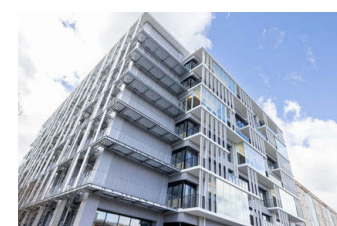


【2024年4月開設】理学部G棟

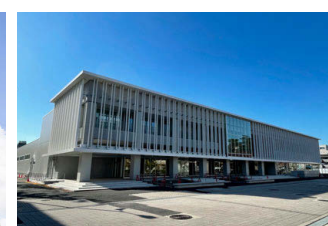
### 中百舌鳥キャンパス



- 現代システム科学域
  - 工学部
  - 農学部
  - 情報学研究科(大学院)
  - 高専(2027年4月より)
- ※2028年度より、情報学研究科→森之宮へ



【2024年4月開設】工学部B7棟



【2024年4月開設】生産技術センター

### 梅田サテライト

- 都市経営研究科  
(社会人大学院)

### 森之宮キャンパス

- 基幹教育
- 文学部
- 医学部  
(リハビリテーション学科)
- 生活科学部(食栄養学科)



### なんば サテライト (I-site なんば)

大阪公立大学  
工業高等専門学校(高専)  
※2027年4月 中百舌鳥へ

### 附属植物園

### 阿倍野キャンパス



- 医学部(医学科)
- 看護学部
- 医学部附属病院



【2025年4月開設】看護学部学舎C棟

### りんくうキャンパス

- 獣医学部



【2025年4月開設】  
高度微生物教育・  
研究センター



決算情報

公立大学法人大阪の財政状態と運営状況について、貸借対照表と損益計算書によりご紹介いたします。  
なお、数値については単位未満四捨五入のため、合計と内訳が一致しない場合があります。

貸借対照表B/S 貸借対照表は、財政状態を明らかにするため、決算日(3月31日)における全ての資産、負債および純資産を記載しています。

| (単位:百万円)             |         |         |         |
|----------------------|---------|---------|---------|
| 科 目                  | 2023    | 2024    | 増減      |
| 資産の部                 | 266,680 | 327,377 | 60,697  |
| I.固定資産               | 216,215 | 265,276 | 49,061  |
| 1.有形固定資産             | 199,096 | 246,984 | 47,888  |
| 土地                   | 78,221  | 91,897  | 13,676  |
| 建物、構築物               | 71,616  | 124,116 | 52,500  |
| 機械装置、工具器具備品          | 11,619  | 13,595  | 1,975   |
| 図書                   | 16,343  | 16,202  | △141    |
| 建設仮勘定                | 21,080  | 963     | △20,117 |
| その他                  | 216     | 211     | △5      |
| 2.無形固定資産             | 3,236   | 2,565   | △671    |
| 3.投資その他の資産           | 13,884  | 15,728  | 1,844   |
| II.流動資産              | 50,464  | 62,100  | 11,636  |
| 現金および預金              | 27,561  | 15,755  | △11,806 |
| 未収入金                 | 20,828  | 45,116  | 24,287  |
| 有価証券                 | 1,410   | 500     | △910    |
| その他                  | 665     | 729     | 64      |
| 負債の部                 | 86,424  | 83,201  | △3,223  |
| I.固定負債               | 23,620  | 27,000  | 3,380   |
| 長期繰延補助金等             | 1,154   | 3,889   | 2,734   |
| 長期寄附金債務              | 3,853   | 7,000   | 3,147   |
| 長期借入金                | 4,117   | 4,032   | △85     |
| 長期未払金                | 14,260  | 11,847  | △2,412  |
| その他                  | 236     | 232     | △5      |
| II.流動負債              | 62,804  | 56,202  | △6,602  |
| 運営費交付金債務             | 201     | -       | △201    |
| 預り施設費                | 20,851  | 722     | △20,130 |
| 寄附金債務                | 3,911   | 905     | △3,006  |
| 前受受託研究費等             | 1,723   | 1,839   | 115     |
| 一年以内返済予定長期借入金        | 1,104   | 1,085   | △19     |
| 未払金                  | 32,042  | 46,337  | 14,294  |
| その他                  | 2,971   | 5,315   | 2,344   |
| 純資産の部                | 180,256 | 244,175 | 63,920  |
| I.資本金                | 175,933 | 189,608 | 13,676  |
| II.資本剰余金             | △26,929 | 25,723  | 52,652  |
| III.利益剰余金(当期末処分利益除く) | 9,188   | 29,847  | 20,659  |
| IV.評価・換算差額等          | 92      | 169     | 77      |
| V.当期末処分利益            | 21,972  | △1,173  | △23,144 |

主な差額要因

建物、構築物  
建設仮勘定  
預り施設費

森之宮キャンパスの学舎、阿倍野キャンパスの新看護学舎、中百舌鳥キャンパスのスマートエネルギー棟、りんくうキャンパスの高度微生物教育・研究センターの完成により建物、構築物が増加しています。  
またこれらの建物等の完成に伴い、建設仮勘定、預り施設費が減少しています。

損益計算書は、運営状況を明らかにするため、一会計期間(4月1日～3月31日)における全ての費用と収益を記載し、当期総利益を表示しています。企業会計とは異なり、公立大学法人は公共的な性格を有し、利益の獲得を目的としていないため、経営成績ではなく、中期計画、年度計画に基づく法人の運営状況を明らかにするために開示されています。

| (単位:百万円) |        |        |         |
|----------|--------|--------|---------|
| 科 目      | 2023   | 2024   | 増減      |
| 経常費用     | 92,920 | 97,587 | 4,666   |
| 業務費      | 90,089 | 94,078 | 3,989   |
| 教育経費     | 5,201  | 5,996  | 795     |
| 研究経費     | 6,140  | 5,982  | △157    |
| 診療経費     | 26,007 | 27,097 | 1,090   |
| 教育研究支援経費 | 2,991  | 3,260  | 269     |
| 受託研究費等   | 4,955  | 4,454  | △501    |
| 人件費      | 44,795 | 47,289 | 2,494   |
| 一般管理費    | 2,501  | 3,202  | 701     |
| 財務費用     | 234    | 222    | △11     |
| 雑損       | 98     | 84     | △13     |
| 経常収益     | 91,036 | 95,650 | 4,614   |
| 運営費交付金収益 | 28,532 | 30,031 | 1,499   |
| 学生納付金収益  | 10,647 | 10,723 | 76      |
| 附属病院収益   | 37,329 | 39,763 | 2,434   |
| 受託研究等収益  | 5,244  | 4,902  | △343    |
| 寄附金収益    | 1,917  | 1,871  | △46     |
| 施設費収益    | 3,034  | 2,996  | △38     |
| 補助金等収益   | 2,381  | 3,547  | 1,166   |
| 財務収益     | 18     | 35     | 17      |
| 雑益       | 1,933  | 1,782  | △152    |
| 経常利益     | △1,884 | △1,936 | △52     |
| 臨時損失     | △530   | △8     | 522     |
| 臨時利益     | 23,883 | 152    | △23,731 |
| 当期純利益    | 21,469 | △1,792 | △23,261 |
| 目的積立金取崩額 | 503    | 619    | 117     |
| 当期総利益    | 21,972 | △1,173 | △23,144 |

主な差額要因

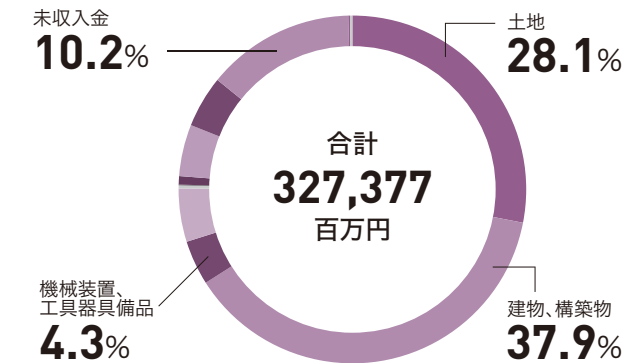
診療経費  
患者数の増加や物価上昇の影響により増加しています。

人件費  
給与改定や非常勤職員への賞与支給開始の影響により増加しています。

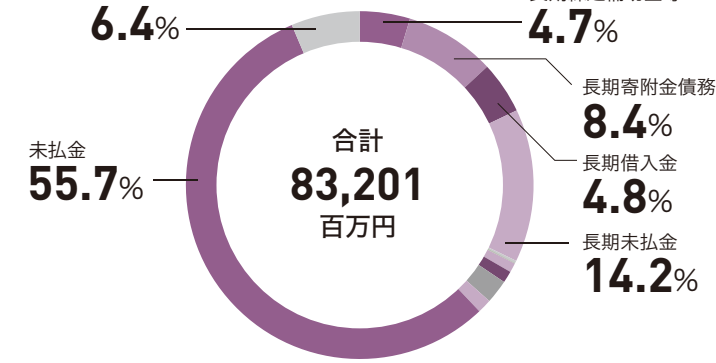
附属病院収益  
病床稼働率が上昇し、患者数が増加したことにより増加しています。

臨時利益  
2023年度は地方独立行政法人会計基準の改訂に伴い、資産見返負債の残高を収益化しました。このことにより前年度の当期総利益と多額の乖離が発生しています。

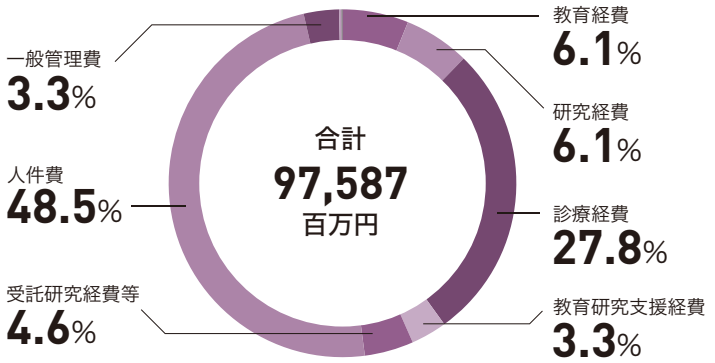
資産



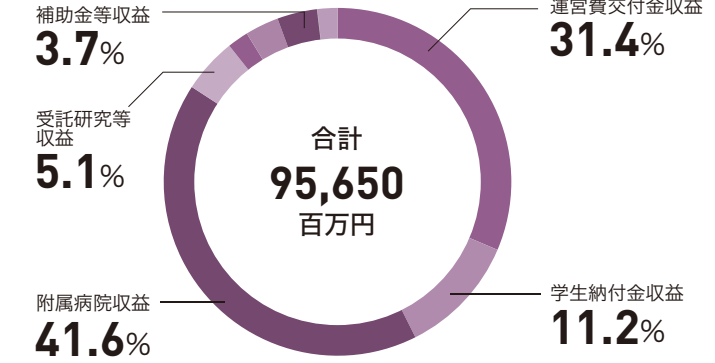
負債



費用



収益





## 項目別経年推移

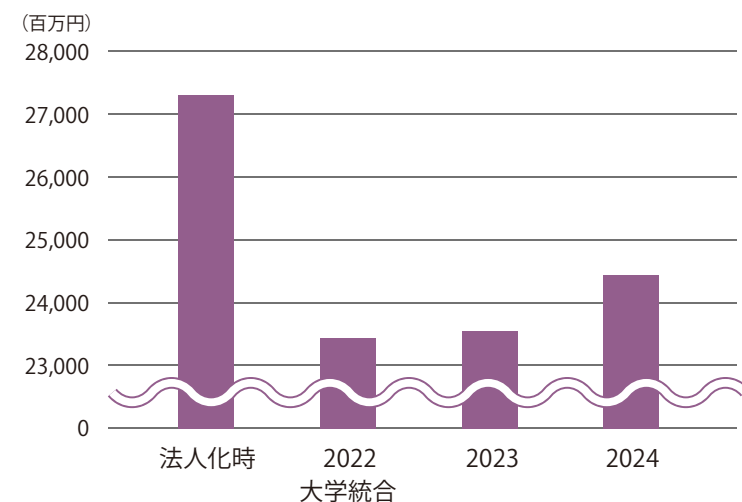
## 大学

## 運営費交付金収益

法人化以降、法人化時比で物件費積算額は約30%減少していますが、法人統合大学統合準備にかかる臨時予算として2021年度約21億円、2022年度約7億円、2023年度約5億円、2024年度約4億円措置されております。

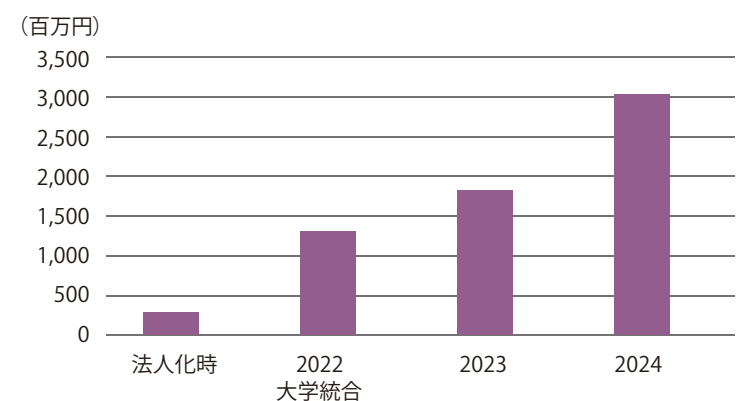
また、2020年度より「大学等における修学の支援に関する法律(国の授業料等減免制度)」が施行されました。このことにより、運営費交付金の収益が制度開始前に比べ約6億円増えておりますが、全額減免費として支出しております。

2024年度は、非常勤教職員に対する賞与の対応や人事勧告に基づく教職員の人件費の増加等もあり、2023年度に比べて運営交付金収益は約15億円の増加となっています。



## 補助金等収益

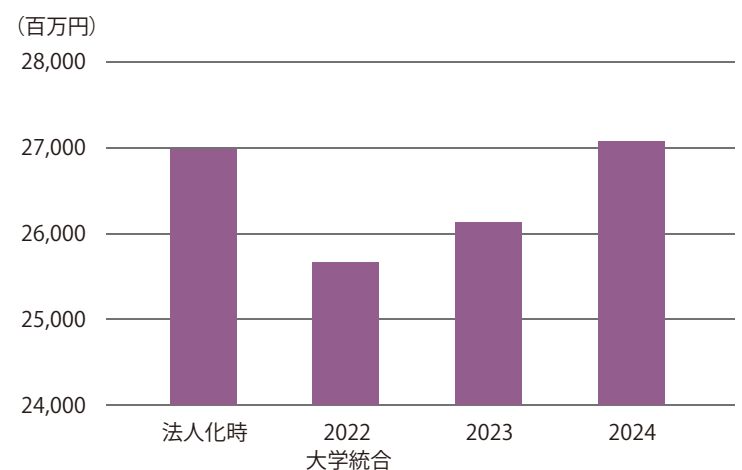
補助金等収益は、法人統合後、大きく伸びてきました。2024年度においても、積極的な獲得活動により「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」や「次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金」などの補助金を獲得したこと等により、過年度と比較して大幅に増加しています。



## 人件費

法人化後、運営費交付金の減少に合わせ、大幅な人員削減を行ってきましたが、法人統合大学統合の準備にあたり2017年度一時的に職員数を増加させる決定を行いました。

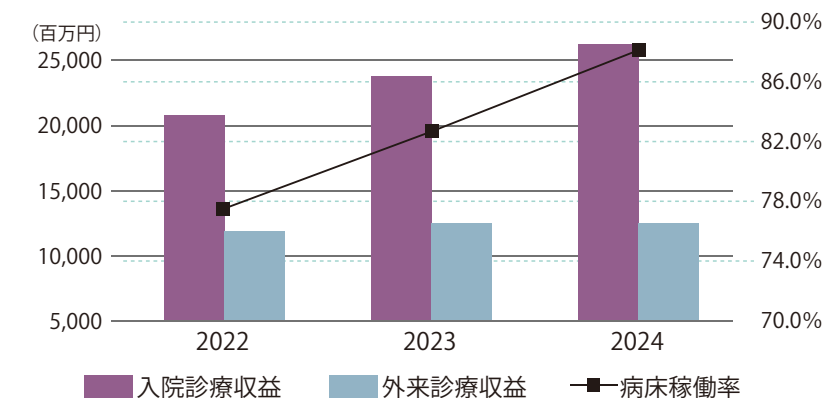
増加した職員については、計画的に減少させているところですが、非常勤教職員に対する賞与の対応、人事勧告に基づく給料、賞与の増加により2023年度に比べて約23.3億円の増加となっています。(退職手当を除く)



## 医学部附属病院

## 入院・外来診療収益・病床稼働率の推移

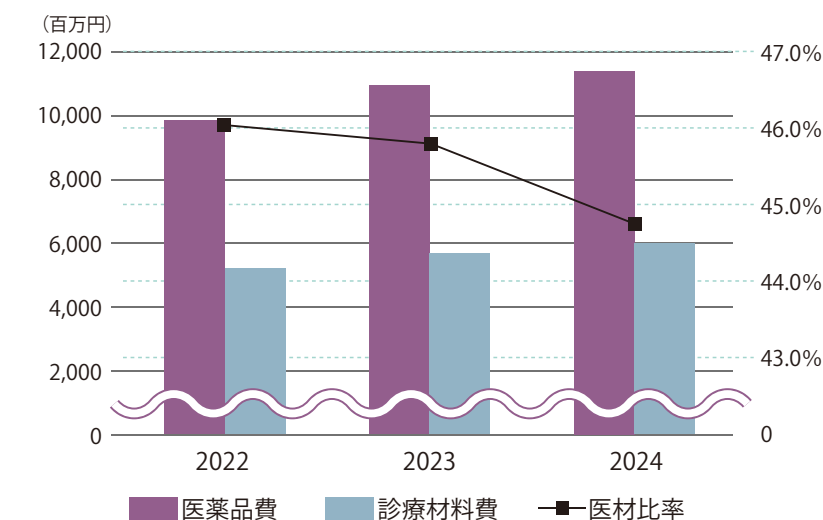
2024年度はHCUを活用した通院中救急の受け入れや地域連携強化を行い、患者獲得に努めたことにより、病床稼働率(82.6%→88.1%)が上昇し、患者数(入院:226,345人→252,062人、外来:481,250人→493,451人)が増加しました。その結果、入院収益で24.3億円増加、附属病院収益全体で2023年度より24.2億円増加しました。



## 医薬品費・診療材料費・医材比率の推移

患者数の増加や物価高騰等に伴い、2024年度の医薬品費は114.1億円、診療材料費は59.7億円となりました。2023年度比では、医薬品費が4.3億円、診療材料費が2.7億円の増加となっています。

しかしながら、附属病院収益の増加及び同種同効品など経費効率化に取り組んだことにより、附属病院収益に占める医材比率は44.8%に減少しました。



## 人件費・人件費率の推移

2024年度の人件費については、給与改定及び集中治療機能強化のための人員増等により、180.9億円と2023年度比12.7億円の増加となりました。

また附属病院収益に占める人件費率(退職金を除くベース)は、46.6%と2023年度より+0.4ポイント増加となっております。

